

Cédric Hanriot trio

Asia tour: South Korea, China, Taiwan and Japan
October 2014



CÉDRIC HANRIOT

GROOVEMATIC

Asian Tour 2014

Cédric Hanriot - Piano / keys / laptop

Bertrand Beruard - Double Bass

Jean-Baptiste Pinet - Drums

3/10/14 – Jarasum Jazz Festival, Korea

6/10/14 – Jz Club Shanghai, China

7/10/14 – Blooms Music Festival, Hangzhou, China

10/10/14 – Sappho Live Bar, Taipei, Taiwan

11/10/14 – Retro Coffee, Taichung, Taiwan

12/10/14 & 13/10/14 – Marsalis Bar, Kaohsiung, Taiwan

15/10/14 – Marsalis Home, Taipei, Taiwan

16/10/14~21/10/14 – Japan

"Cedric is one of the most talented musicians I know. His wide range of abilities from playing to arranging and sound design, makes him a triple threat - and how amazing that he has accomplished so much in a short 12 years of playing! Cedric is destined for great things..."

Terri Lyne Carrington - 2009 - grammy award winner and drums with Herbie Hancock, Stevie Wonder

!

<http://cedrichanriot.com>





CEDRIC HANRIOT

groOvematic

・Cédric Hanriot (piano, keyboards, laptop)
・Bertrand Beruand (double bass)
・Jean-Baptiste Pinet (drums)



Cédric Hanriot
"French Stories"
(Mocloud / DQC-1381) ¥2,300
10/29/2014 Release
セドリック・ハンリオット (p, key, programming), ジョン・パティトゥッチ (b), テリ・リン・キャリントン (dr) .他

➡➡ フランス発、エレクトロ・ジャズの新しい形

21才からピアノを始め、瞬く間に上達。アコースティック・ピアノとエレクトロニック・サウンドに現代的なポップス、ロックの影響も含まれた洒落なスタイルが目まぐるしく変化する。ライブではピアノ、キーボード、ラップトップ、ボコーダーを駆使。

➡➡ ハービー・ハンコックも信頼!

2012年、ハービー・ハンコックの依頼でLAに1ヶ月滞在してツアーのための機材プログラミングとヘッドハンターズ時代の曲を採譜。ハービーはセドリックのプログラミングを再生しながらソロピアノ他ツアーをおこなった。ハービーの認めたサウンドデザインを聞くチャンス!

➡➡ ミュージシャン仲間からも熱い視線

・「セドリックは、その広範な才能で、演奏力・アレンジ・サウンドデザインの三拍子揃った存在と言えるわね」テリ・リン・キャリントン

・「彼の音楽には驚き、感動、抗えない魅力がある。見逃さないように!」ジャン・ミシェル・ビルク

・「ハンリオットは、他のジャズアーティストに比べて、自分の境界を押し拡げるためのチャンスに果敢にモノにしている。ヤツはいつでも自分の音楽領域を開拓することを怖れないので、こちらが想像できない域にまで達する。これがハンリオットに前人未踏の音楽の小径とサウンドを発見させている理由だよ」グレッグ・オズビー

10/16 (木) 芦屋「Left Alone」(659-0091 兵庫県芦屋市東山町4-13 tel: 0797-22-0171)

開演 7:30PM 2sets (3,500円)

10/17 (金) 京都「Le Club Jazz」(604-8082 京都府京都市中京区三条御幸町 三条ありもとビル2F tel: 075-211-5800)

開演 7:30PM 2sets (3,500円)

10/18 (土) 名古屋「Star Eyes」(464-0836 愛知県名古屋市中千種区千種3-4-1 tel: 052-763-2636)

開演 7:30PM 2sets (前売3,500円 当日4,000円)

10/19 (日) 東京 新宿「Pit Inn」(160-0022 東京都新宿区新宿2-12-4アコード新宿B1 tel: 03-3354-2024)

開演 8:00PM 2sets (4,000円)

10/20 (月) 横浜「Motion Blue Yokohama」

(231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-1-2 横浜赤レンガ倉庫2号館3F tel: 045-226-1919)

開演 7:00PM / 9:00PM *入替なし (4,000円)

10/21 (火) 飯田橋「アンスティチュ・フランセ東京ラ・プラスリー」

(162-0826 東京都新宿区山谷御河原町15 tel: 03-5206-2741)

開場 6:00PM 開演 8:00PM 1set

主催: 株式会社スタンダードワークス 後援: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

協力: Mocloud Records (www.mocloud.com) お問い合わせ: Mocloud Records (info_mocloud@mocloud.com)





牧山純子

東京・渋谷「PLEASURE PLEASURE」,10月16日(木)



Photo Courtesy of Pony Canyon

■ **Setlist** 1st: ①マイナー・スイング ②サム・スカンク・ファンク ③月虹 ④サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート ⑤愛がすべて 2nd: ①スペイン ②このころのひかり ③希望への道 ④エヴリシング ⑤スマイル ⑥アンダルシア ⑦サニー・サイド・アップ (Encore)

■ **Personnel** 牧山純子 (vin), 横田明紀男 (g), 大山泰輝 (p), クリス・シルバースタイン (b), 斉藤恵 (per)

新作を十分に聴き込んでいても新鮮な聴き応えを感じさせる

アルバム『月虹』が出たのは6月。その一か月後に大阪での発売記念ライブは行っていたのに、東京公演が10月にまでずれ込んだのは、アーティストとプロデューサーの二人が超多忙だからだろう。そのアーティスト、牧山純子のライブ回数の多さは半端じゃないし、テレビ番組「ミヤネ屋」への出演も徐々に堂にいつてきた感じだ。プロデュースを担当したギタリスト横田明紀男もフライング・ブライドとしての活動のみならず超多忙な人。やっと日程が合わせられたというところなのだろう。そして肝心のライブは、その分気合いが入っていたように感じられた。この二人に斉藤恵、クリス・シルバースタイン、大山泰輝という顔触れだ。まずは牧山と横田の二人だけで二曲。

そして2曲目で早くも話題の〈サム・スカンク・ファンク〉が飛び出す。この、本来ならば考えられない選曲での二人の超絶技巧を、お客さんはどう聴いただろう？ 実はこの日のお客さん、非常に年代が幅広く、それこそ牧山の親世代や昔

の同級生だったような世代、更には二十歳になったかならないかという世代まで。つまり、この曲のオリジナルを知らないだろうというような人も多かったのだ。とはいえ、この曲を始め、休憩を挟んでタププリ2時間以上のライブの総てを誰もが楽しんでいた様子だった。そもそも、この二人が組んだライブは曲間のトークも楽しいのである。天真爛漫振りを発揮する牧山と、そこに味のある突っ込みを入れる横田、という構図。これが実に笑えるのである。

肝心の演奏だが、当然ながら新譜からのナンバーを中心とはしながらも、そこに更なる工夫とアレンジを加え、新作を十分に聴き込んでいても新鮮で更なる聴き応えを感じさせる出来であった。後半にはワイヤレスの特性を活かして、牧山は客席を回りながらの演奏まで披露した。美脚を強調した衣装二組も素敵でしたよ。そしてこの翌週には台湾での発売記念ライブも敢行。グローバルになってきたな！

(櫻井隆章)

セドリック・ハンリオット

東京・新宿「ピットイン」,10月19日(日)



Photo Courtesy of MacLoud Record

■ **Setlist** 1st: ①DNA ②ファリー ③グリーン ④ウォーターメロン・マン ⑤リバイブ ⑥ラン 2nd: ①ティアードロップ ②ノウリー ③ライト ④ルイジアナ ⑤ジュ・ドゥ ⑥アコースティック・ウェイ

■ **Personnel** セドリック・ハンリオット (p, key, lap-top), ベルトラン・ベルナルド (b), ジャン・バプティスト・ピネ (ds)

そのスタイルはハンコックのお眼鏡にかなったのも納得の時代感

フランス出身のピアニスト、セドリック・ハンリオットはジャズ・ピアニスト/鍵盤奏者としてテリ・リン・キャリントンやダイアン・リーブスなどと共演するヨーロッパの新たな才能だ。ただ、セドリックの活動はいち鍵盤奏者それだけでなく、そのシンセやプログラミングの知識を買われ、ハービー・ハンコックのツアー用の機材のプログラミングを担当するなど、その幅広い才能が注目を集めている。今回はセドリック・ハンリオット・グループ・マティック名義での来日で、アコースティック・ピアノの横にキーボードやラップトップを置き、ジャズの即興と、プログラミングが融合したサウンドを聴かせてくれた。

ラップトップを使い、プログラミングされた打ち込みのトラックを呼び出しながら、そこに三人で即興演奏を重ねていくそのスタイルは、ハンコックのお眼鏡にかなったのも納得の時代感を持っていて、具体的に言うと90年代の雰囲気。セドリックはアコースティックのピアノ

と、さらにはギンギンに音を歪ませたシンセのサウンドを使い分ける感じもヒップホップというよりは、フュージョン経由のそれを思わせる。ジョジョ・メイヤー以降の人力ドラムン・ベースを無難にこなすジャン・バプティスト・ピネは、完全に機械化するような昨今のトレンドと距離を置くように、ループの中にも、ジャズのグルーヴ感をねじ込むように試行錯誤しているように見えた。ベルトラン・ベルナルドのグルーヴするファンキーなベースも同様で、むしろノスタルジックにさえ響くのも面白い。ハンコックの〈ウォーターメロン・マン〉をやっているように所々でハンコックのフレーズを引用するのもご愛嬌。現代的なヒップホップとジャズの融合というよりは、ハンコックによる『ヘッドハンターズ』〜〈ロック・イット〉〜『フューチャー2フューチャー』的なクロスオーバー・サウンドの継承を感じさせるサウンドはジャズ・ファンにもなじみ易かったのではないだろうか。

(柳楽光隆)

Cédric Hanriot "GroOovematic"

セドリック・ハンリオット・グルーヴマチック

遅咲きの奇才ピアニスト、セドリック・ハンリオットがフランスの若手リズム・セクションと共に初来日を果たした。10月にリリースした初リーダー作『フレンチ・ストーリーズ』とは、一味違うスピーディでグルーヴ感溢れる演奏を披露した、新宿ピットインのライブの様相をレポートしよう。

セドリックのジャジーなピアノとエレクトロが織りなす新感覚グルーヴ

2014年10月19日 at 新宿ピットイン



ジョン・パティトゥッチ(b)とテリ・リン・キャリントン(ds)という強力リズム・セクションで録音したデビュー作『フレンチ・ストーリーズ』をリリースしたばかりのセドリック・ハンリオットが自己のグループ「グルーヴマチック」で初来日公演を行なった。20歳でピアノを始めたという超遅咲きながら、その才能を見込まれハービー・ハンコック(p)のツアー用音源のプログラミングを任されるなど、類まれなるエレクトリック・センスを見せる期待のフランス人ピアニストが、セドリック・ハンリオットなのだ。

Cédric Hanriot

ピアノの上にはキーボードとラップトップがセッティングされ、ファースト・セットの1曲目からヴォイスを駆使して演奏はスタート。20歳からピアノを始めたとは思えない強靱なタッチと華麗な指さばき。そのフレイズにはハービーの明らかな影響を感じさせる。幼少期からのクラシックで培われた端正なタッチを誇る欧州ピアニストが多い中、ジャズ好きの大人になってからピアノを始めたセドリックのフレイズはジャズそのものといえる重さを感じられる。ベルトラン・ベルアール(b)とジャン・バプティスト・ビネ(ds)のリズム隊はグルーヴを前面に出すというよりはスピーディなフレイズでセドリックのピアノをブ

Set List
10月19日
新宿
ピットイン

- 1st
1. DNA
2. Fally
3. Green
4. Revibe
5. Run
2st
1. Tear Drop
2. Souly
3. Light
4. Louisiana
5. Jeux Do
6. Akostic Way
encore.
Watermelon Man



「フレンチ・ストーリーズ」
セドリック・ハンリオット
モークラウド DQC-1381

取材：星野利彦
撮影：編集部



メンバー：セドリック・ハンリオット(p.kb.prog)、ベルトラン・ベルアール(b)、ジャン・バプティスト・ビネ(ds)

ッシュ。グルーヴィな中にもクールな一面を感じさせ、ドラマチックな展開を見せる曲が続く。アルバムで聴かれたパティトゥッチ&テリ・リンの黒いグルーヴで押しまくるブレイとは一味違う、若いフランス人リズム・セクションのスピード感とセドリックのジャジーなピアノとエレクトロが織りなす新感覚グルーヴがこのトリオの魅力だろう。

セカンド・セットになると演奏の温度感は格段にアップ。ポエトリー・リーディングにキーボードとアコースティック・ピアノを駆使し、左手で随時ラップトップで設定を微調整。一気にエレクトロ・ファンクの色合いが濃くなる。ピアノの弦をはじき、弦の上にCDを置いて音色を変えるなどのエフェクト効果も交えて演奏は混沌としたグルーヴを繰り出す。あくまでもアコースティック・ピアノをメインとしながらも、絶妙な塩梅でエレクトロを織り交ぜるセドリックのブレイに観客からも熱い声援が飛ぶ中、アンコールは最も影響を受けたハービーの「ウォーターメロン・マン」。ヘッド・ハンターズ時代の「あの音色」がキーボードで再現されハービーへの熱き想いがそのフレイズの随所に感じられた。アンコール2曲目はミディアム・テンポのレイド・バックしたジャズ・チューン。この日一番のジャジーな演奏にセドリックのジャズ・ピアニストとしての確かな力量を感じた。■

CÉDRIC HANRIOT GROOVEMATIC

Cedric Hanriot, Bertrand Beruand, Jean Baptiste Pinet

Japan Tour 2014

Jazz Piano x Electronic Music from France

ハービー・ハンコックが信頼したエレクトロの使い手
グルーヴ・ジャズ・ピアニストセドリック・ハンリオット来日決定!

10/16(木) 芦屋 Left Alone

10/17(金) 京都 Le Club Jazz

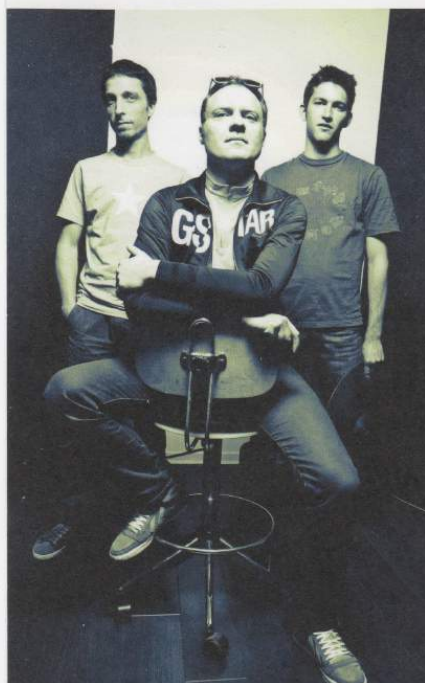
10/18(土) 名古屋 Star Eyes

10/19(日) 東京 新宿 Pit Inn

10/20(月) 横浜 Motion Blue Yokohama

10/21(火) 飯田橋 Institut français du Japon - Tokyo "La Brasserie"

"Cedric Hanriot is one of the most talented and personal musicians I have met in a long time. His music is surprising, moving and irresistible. Not to be missed!"
- Jean Michel Dile (pianist)



CEDRIC HANRIOT

groOovematic

・Cedric Hanriot (piano, keyboards, laptop)
・Bertrand Beruand (double bass)
・Jean-Baptiste Pinet (drums)



Cedric Hanriot
"French Stories"
(Mocloud / DQC-1381) ¥2,300
10/29/2014 Release
セドリック・ハンリオット (p. key, programming), ジョン・バティスト (b), テリリン・キャリントン (dr)

➡ フランス発、エレクトロ・ジャズの新しい形

21才からピアノを始め、瞬く間に上達。アコースティック・ピアノとエレクトロニック・サウンドに現代的なポップス、ロックの影響も含まれた洒落なスタイルが目ざされている。ライブではピアノ、キーボード、ラップトップ、ボコーダーを駆

➡ ハービー・ハンコックも信頼!

2012年、ハービー・ハンコックの依頼でLAに1ヶ月滞在してツアーのための機材プログラミングとヘッドハンズ時代の曲を採譜。ハービーはセドリックのプログラミングを再生しながらソロピアノ他ツアーをおこなった。ハービーの認めたサウンドデザインを聞くチャンス!

➡ ミュージシャン仲間からも熱い視線

・「セドリックは、その広範な才能で、演奏力・アレンジ・サウンドデザインの三拍子揃った存在と言えるわね」テリリン・キャリントン

・「彼の音楽には驚き、感動、抗えない魅力がある。見逃さないように!」ジャン・ミシェル・ビルク

・「ハンリオットは、他のジャズアーティストに比べて、自分の境界を押し広げるためのチャンスを果敢にモノにしている。ヤツはいつでも自分の音楽領域を開拓することを怖れないので、こちらが想像できない域にまで達す。これがハンリオットに前人未踏の音楽の小怪とサウンドを発見させている理由だよ」クレグ・オズビー

10/16 (木) 芦屋「Left Alone」(659-0091 兵庫県芦屋市東山町4-13 tel: 0797-22-0171)

開演 7:30PM 2sets (3,500円)

10/17 (金) 京都「Le Club Jazz」(604-8082 京都府京都市中京区三条御幸町 三条ありもとビル2F tel: 075-211-58)

開演 7:30PM 2sets (3,500円)

10/18 (土) 名古屋「Star Eyes」(464-0836 愛知県名古屋市中区千種区菊坂町3-4-1 tel: 052-763-2636)

開演 7:30PM 2sets (前売3,500円 当日4,000円)

10/19 (日) 東京 新宿「Pit Inn」(160-0022 東京都新宿区新宿2-12-4アコード新宿B1 tel: 03-3354-202)

開演 8:00PM 2sets (4,000円)

10/20 (月) 横浜「Motion Blue Yokohama」

(231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-1-2 横浜赤レンガ倉庫2号館3F tel: 045-226-1919)

開演 7:00PM / 9:00PM *入替なし (4,000円)

10/21 (火) 飯田橋「アンスティチュ・フランス東京・プラスリー」

(162-0826 東京都新宿区市谷船河原町15 tel: 03-5206-2741)

開場 6:00PM 開演 8:00PM 1set

主催:株式会社スタンダードワークス 後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス日本

協力: Mocloud Records (www.mocloud.com) お問い合わせ: Mocloud Records (info.mocloud@mocloud.co)



ピアニストの フランス発、エレクトロ・ピアノ・ジャズの新鋭
【特集】肖像 セドリック・ハンリオット

Cédric Hanriot

フランスの伝統とジャズに、デジタル・サウンドを加えて自分のストーリーを物語るピアニスト、セドリック・ハンリオット。ジャン＝ミシェル・ビルク(p)が「Cedric is the future」とコメントするなど、数々の名ジャズ・プレイヤーからの期待を一身に受ける彼は、どのような人物なのだろうか？

Interviewed by Kirihiro Mori
取材：森桐人
取材協力：Mooloud Records



プログラミングをして自分のサウンドを作ることが好き。
その音で何かを表現することを意識している

20歳からピアノを始め、
ハービーに信頼されるまで

— 音楽を始めた背景から教えてください。
セドリック・ハンリオット(以下CH)：子供の頃から音楽には興味があったけれど、小さな街で生まれ育ったので音楽を演奏する環境がなく、両親が音楽を進めてくれたわけでもなかった。だからピアノを始めたのは20歳になってからだったんだ。

— 誰かに習ったのですか？

CH：いや、運よく、すでにツアーも多くこなしているロック・バンドと知り合っただけ。彼らに入れてくれないかと頼んでみたところ、参加できることになって。それで小さなキーボードを買って、そのバンドで少しずつ演奏を覚えながら2年間ツアー生活をしてた。

— 加入当時は、全く弾けなかったわけ

ですか？

CH：そう(笑)、だから本当に1音1音さ。その次にサルサ・バンドに入ってリズムを学び、ついにジャズのバンドに入ることができた。でも、弾けなくて大変だった。良いメンバーに恵まれて、彼らが僕の演奏が上述するように手助けしてくれた。その後、奨学金を受けて、2007年にパークリー音楽大学に留学したんだ。

— 随分、上達が早かったのですね。

CH：理系の思考回路が役に立ったんじゃないかな。数学などの論理的思考は、音楽を理解する地頭を作ってくれると思う。ピアノを始める前、大学ではオーディオに関するエレクトロニクスを専攻していて、アルゴリズムを書いたり、リヴァーブやサウンド・エフェクトをデザインしていたし。

— パークリー時代の話も聞かせてください。

CH：それまであまり詳しくなかった音楽理論を学ぶことができたし、教授のテリ・リン・キャリントン(ds)と知り合えたことも大きい。テリ・リンの授業に参加したくて、オーディション用にサウンド・ファイルを送った。『この曲はとても素晴らしい。この曲を、私のアンサンブルと一緒に演奏してみない？』と言われたんだ。ワーオ！ 驚いたよ。

— どんな曲を送ったのですか？

CH：グルーヴィなベース・ラインのファンキーなジャズで、そこにも自分でデザインしたサウンドを入れていたんだ。それをきっかけに彼女からサウンド・デザインを依頼されるようになり、アルバムでキーボードを弾くようにもなった。ミシェル・ンデゲオオチュロ(b,v)を紹介してもらって3人で演奏したり。

— 「フレンチ・ストーリーズ」は卒業の時に制作したわけですね。

CH: そのとおり。アルバムを作るとなったらテリ・リンに頼みたかった。テリ・リンにベースのジョン・パティトゥッチを紹介してもらい、すぐに日程を決めて、ボストンでレコーディングすることになった。彼らは凄いプレイヤーだから、僕はスタジオではとてもナーバスになっていた。でも、結果的には人生で今のところ最もスムーズに物事が進んだセッションだったね。アルバムでは、子供の頃から聴いてきたフランスの楽曲へのトリビュートの気持ちから、さまざまなフレンチ・ポップスを取り上げてジャズに仕立てた。フレンチ・ソングをアメリカ人のリズム・セクションで演奏するのはエキサイティングだったね。

—— オープニングの「ルイジアナ」や「マンボ」などはグルーヴィなアプローチだね。「トライバル・ボエム」は後半でサルサ風に転じたり、ラテン・テイストも感じます。

CH:僕はサルサ・バンドにもいたし、ファンキーなジャズも好きだからね。「マンボ」はジャコ・パストリアス(b)の「ユースト・トゥ・ビー・ア」チャチャと同じヴァイブを持つラテン・リズム・ジャズを狙ったので、本当のマンボというわけではない。

——今はバリを拠点にしているのですね。

CH:フランスに帰ってきてからは、ベルトラン・ペルアル(b)、ジャン・パプティスト・ビネ(ds)と“グルーヴマティック”としてトリオで活動をしている。

——彼らとはどこで知ったのですか？
CH:ベルトランは、僕の最初のロック・バンドでベースを弾いていたんだ！彼もその後ジャズの道に入って、もう14年ほどアップライト・ベースを弾いている。今はフランス国内のアフリカ系ミュージシャンと多くプレイしているんだ。ジャンは僕より10歳ほど若く、これから期待できるドラマー。グルーヴマティックとしてのアルバムも録音済みで、来年には発売したい。日本公演では「フレンチ・ストーリー」からの曲と半々で演奏しようと思っている。

自分の中にあるイメージをデジタルで表現したい

——2012年にはハービー・ハンコック(p)の依頼で、ツアー用のプログラミングを担当したということですが、どのような経緯だったのですか？

CH:アメリカでツアーをしている時に何度か彼に会う機会があった。「フレンチ・ストーリー」のサウンド・エンジニアがハービーも担当していたという共通点もあって、彼と話をすることができたんだ。テリ・リンのことやエレクトロニクスのことなどいろいろ話をしたね。2011年冬に、彼から直接連絡があって「来年のツアーのために音源が必要なので、1ヵ月LAに来てプログラミングをしてくれないかと打診された。「もちろんです！」とふたつ返事で引き受けて、すぐに航

profile セドリック・ハンリオット
<http://cedrichanriot.com/>

1976年フランス生まれ。大学でエレクトロニクスを専攻し、21歳で修士号を取得。2007年、ハーヴィー音楽大学に留学する。2013年には、タイアン・リーヴスの「ビューティフル・ライフ」にサウンド・デザインと演奏で参加。現在は自身初のバンドである「グルーヴマティック」のデビュー作を準備中だ。他に、ジェイソン・バーマールとのサイド・プロジェクト「City of Poets」のレコーディングも予定している。

空券を予約したよ(笑)。プログラミング以外にも、ヘッドハンターズ時代の「4AM」「カム・ランニング・トゥ・ミー」の採譜も頼まれ、各パート毎の譜面を書き起こした。ハービーは長い間それらの曲を演奏していなかったで、ツアーで取り上げようと思い立った時に譜面が見当たらなかったんだ。彼のソロ・コンサート用に、エイブルドン・ライヴ(音楽制作アプリ)にベースやドラムのシークエンスをセッティングしたりもした。

—— 難しい経験でしたね。

CH:もしその人の音楽を深く知りたいと思うなら、まずその人自身を知らなければならぬ。彼からマイルス・デイヴィス(tp)やトニー・ウィリアムス(ds)のことなどをたくさん聞かせてもらいながら、音楽のことや人生のことについて話す時間を持つことができて、とてもラッキーだった。

—— サウンド・デザインについて話してもらえますか。自分の音楽にどのように採り入れたのでしょうか？

CH:作り方は2通りある。ひとつはサンプリングで、好きな音を取ってきて加工して新しいテクスチャーを加えるというもの。でも僕はプログラミングをして自分のサウンドを作るのが好きだ。特に、その音で何かを表現することを意識している。たとえば「水」をテーマにした感じさせたりする曲なら「水」を表現したサウンドを、「ポエトリー」に関する曲なら詩的なイメージのサウンドというように、自分の中にあるイメージをデジタルで表現したい。

—— サンプリングの場合はどのようにしているのですか？

CH:次の録音は「City of Poets」というプロジェクトなんだけれど、Cityということで地下鉄の環境音を録音してきて、それをエディットして、エフェクトをかけてオリジナルなテクスチャーに仕上げるつもり。サウンドを作ることに限界はないし、想像もしなかったものが出来上がってくると、そのサウンド



左から、テリ・リン・キャリントン(ds)、セドリック・ハンリオット(p,kb)、ジョン・パティトゥッチ(b)。

が僕にインスピレーションを与えてくれる。映画を観ているかのようなシネマティックなサウンドを作りたいといつも思っている。実際に今、映画音楽の作曲も勉強しているんだ。

——それほどエレクトロニクスに長けているのに、完全なコンピュータ音楽に行こうとは考えなかったのですか？

CH:ジャズもエレクトロニクスも、両方本当に好きだったんだ。自分の成長過程を考えると、両方をやるのが自然だった。ピアノを弾いていると自由を感じるし、自分の音楽表現としてはピアノしかない。最近、またブルースに熱中しているしね。ポリリズムや、ファンキーなグルーヴのレイトバックしたヴァイブも採り入れていて、リズムやグルーヴの多様性を折衷したところに、自分らしさが出ると思っている。もし完全にエレクトロの世界に行ってしまったら、僕はデジタル・サウンドを「自分の一部」として使うことはできなかっただろうね。

——どのようなピアニストが好きですか？

CH:ひとりを挙げるのは無理だけれど、レッド・ガーランド、ハービー・ブラッド・メルドー、マルタ・アルゲリッチなどだね。特にマルタは目を閉じれば風景が浮かんでくる。ピアノで人生の物語を話してくれている。僕はピアノ・トリオの自由さにデジタル・サウンドのテクスチャーをつけて、聴き手にあたかも旅にでているような気分になってもらいたい。みんなを音楽で素敵な旅に連れて行きたいんだ。



「フレンチ・ストーリー」セドリック・ハンリオット
モッククラウド(Mockcloud) DQC-1381
10月29日リリース

現代ジャズとエレクトロのフラグメンツを混ぜたフレンチ・ポップ・ジャズ

●収録曲 ● ①ルイジアナ ②懐かしき恋人への歌 ③クランキー ④ユア・スウィートネス ⑤プレリュード ⑥マンボ ⑦トライバル・ボエム ⑧美しいかったマリアンヌ ⑨ジャズとジャヴァ ⑩夜の讃歌

●パーソネル ●

セドリック・ハンリオット(p, rhodes-p, kb, vox, prog, electronic, laptop), ジョン・パティトゥッチ(b), テリ・リン・キャリントン(ds, vo), ベンジャミン・パウエル(vin), バトリック・オーウェン(vo), 2TH(vo)

●録音 ● 2011年ボストン録音

●作曲 ● セドリック・ハンリオット(①③～⑦)他
●選曲 ● 懐かしき恋人への歌、ハンリオットがキャリントン、パティトゥッチを連れて制作した初リーダー作。

セドリック・ハンリオット「グルーヴマティック」来日ツアー(セドリック・ハンリオット(c,kb), ベルトラン・ペルアル(rhodes), ジャン・パプティスト・ビネ(ds) 10月16日＝戸塚レフトアローン、17日＝京都府・クラブ・ジャズ、18日＝名古屋スターアイズ、19日＝新宿ピットイン、20日＝モーション・ブルー・ヨコハマ、21日＝飯田橋アンスティチュ・フランセ東京・プラスリー。詳細はモッククラウド・レコーズ(<http://mockcloud.com/>)。

⇒ Jay's life (JAPAN), Nov 2014



HEADHUNTERS HERBIE HANCOCK (1973年)

ハービー・ハンコック (ep) ペニー・キウビン (sax)
ポール・ジャクソン (eb) ビル・サマーズ (conga)
ハーヴィー・メイン (ds)

08. CEDRIC HANRIOT

「高校生の頃、友達から教えてもらった『カメレオン』をきっかけに、『ヘッドハンターズ』を探して聴いてみたんだけど、もう、吹っ飛ばされたよ！当時ジャズのことをそんなに知らなかったけれど、ファンキーさと創造性が一体化しているところが衝撃だった。彼らのオーガニックな演奏スタイルによるグルーブに心を奪われたよ。ほとんど同じコード進行とドラムパターンの上で創りだすグルーブ。リズムとハーモニーのアイデア。このような演奏は、ハービーの真骨頂。僕も曲を書く時にそれを心掛けているし、一緒に演奏する人に自由な余地を残してクリエイティブになれるようにしている。『ウォーターメロンマン』でビル・サマーズが演っているビグミーのホイッスルとか、もう別世界だよ！この曲が僕に教えてくれたことは、香の曲(この曲は60年代に書かれている)でも、テンポ、テクニチャー、新しいセクションを加えることで再創造できるということ。これはジャズミュージシャンがスタンダードを解釈する時にずっとやってきたことだよ。」



セドリック・ハンリョット。パリ在住のフランス人ピアニスト。エレクトロニック、R&B要素を含んだグルーブ・ジャズとヨーロッパのクラシカルな伝統を融合させたスタイルで注目される。2012年にはハービー・ハンコックのツアー・機材プログラミングとヘッドハンターズ時代の曲の採譜を担当。10月16日、レフトアローン(声優)を皮切りに、希望の来日ツアーを行う。

⇒ WAY OUT WEST (JAPAN), n°67, october 2

Orquesta Libre + Suga Dairo + RON+II 「plays Duke」 待望の12 inch アナログ重量盤！



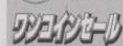
オルケスタ・リブレによる
世界ハーレム化計画！
A1. Take the A train
A2. African Flower
A3. Money Jungle
B1. Caravan
B2. Sophisticated Lady
B3. Rock 'n' Rhythm
9月20日 全国流通開始！
GLAM-0003LP ¥3,000(税別)
CD盤も好評発売中！

オンラインショップ限定



「本物の音楽教育」に
こだわり続ける音楽出版社
お求めは全国の楽器店・書店にて。
また、オンライン限定にてATN出版物。
輸入楽譜など好評販売中。

atn 陸奥



好評開催中！！
この機会をお見逃しなく

ATN 教則本・楽譜の出版、販売
株式会社エー・ディー・エヌ
東京都港区南青山4-3-24
青山NKKビル1F tel.03-3475-6981
ATN_shinkan atn.inc

第20回 足立 衛 & アゼリアジャズオーケストラ コンサート ～スタンダードジャズ・セレクション～

スウィングジャズ
ファン待望の
ビッグバンド

12月6日(土) 14:00～ 前売り3,500円

グレン・ミラーやグッドマンなどのスタンダードジャズを演奏。
ステージのラストには第20回の記念に大塚善章 (P)と宮本直介 (B)がゲスト出演。

会場・開演 池田市民文化会館 072-761-8811 池田市民文化会館

アゼリアジャズオーケストラ 検索

ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード55095)

